

北海道芸術学会 第42回例会 開催のお知らせ



横森政明《馬方》1955年
美幌博物館



澁谷俊彦《SNOW PALLET 15》2022年、札幌アートヴィレッジ内 芸森ワーサム
写真出典：<https://www.toshihikoshibuya2.com/snow-pallet>

- 日 時：2024年3月24日（日） 18時00分～19時45分 （入場無料、申込不要）
*北海道芸術学会の会員でない方も参加できます。

- 場 所：札幌文化芸術交流センター SCARTS スタジオ1・2
札幌市中央区北1条西1丁目（地下鉄大通駅 30番出口から西2丁目地下歩道より直結）
*一部をZoomで配信予定。Zoomでの参加受付先：<https://forms.gle/nH8TrHg9k3ZTYyXy6>

■プログラム

18:00～18:25 研究発表

早田真莉子（美幌博物館 美術学芸員） 「美幌町の画家・横森 政明」

18:30～19:45 美術対談

澁谷俊彦（美術家）× 梁井朗（北海道新聞文化部記者、北海道美術ネット主宰）

“作らない作家？ 澁谷俊彦氏のアート実践報告と解説”

北海道芸術学会の副会長でもある澁谷俊彦さんの活動プロジェクト「Snow Pallet」が、昨年スコットランドの芸術活動のイニシアチブ「The Starving Artist」によって、環境問題を主題に活動するアーティスト30名（20か国）に選ばれました。アート・アクティヴィズムについてなど、お話を伺います。

問合せ先：北海道芸術学会事務局

（北海道大学大学院文学研究院芸術学研究室 やこゆう 谷古宇尚）

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目
メール：yakou@let.hokudai.ac.jp

研究発表要旨

早田真莉子（美幌博物館 美術学芸員）「美幌町の画家・横森 政明」

美幌町在住の画家 横森政明 [1927(昭和2)年～] は、美幌町の美術活動を牽引した人物の一人であり、美幌町のアートを語る際に欠くことのできない存在である。彼の作風は年代ごとに大きな変化を見せるが、どの作品にも、ある種の悲しさ・寂しさが通底している。

1950（昭和25）年、第1回美幌町文化祭の「絵画展」出品者の1人として、横森はいた。以降、恩師である居串佳一が属する独立展などの中央画壇にも挑戦し、精力的な活動で町内の美術活動をリードしてゆく。ともに美幌町の文化活動の礎を築いた納直次や谷口百馬が瀕死していくなか、横森は現在に至るまで後進の指導（安田完、松本優治、絵画サークル）を続け、長きにわたり美幌町の美術活動に貢献してきた。今回は、横森の足跡を美幌町の美術史に沿って概観し、美幌博物館に収蔵される1983点にもものぼる横森作品群から、その作風の変遷についても概説する。